

多摩川と世界の河川

江戸時代、江戸っ子100万人の命の水を提供してきた多摩川。
途中の羽村からはじまる人口の水路・玉川上水は江戸まで43キロ(高低差90m)を繋いでいた。
多摩川の水源は笠取山(1953m)の水干(1865m)、総延長138Kmを流れ江戸湾に注いでいる。

日本の国土の特色は、その背骨に山脈があり、そこから流れる水が川となり、海に注いでいる。

日本の川は世界の大河と比較すると、川の総延長距離が短く350km前後以下。

1800mから2700mほどの山から流れ落ちている。

世界の川に比べると極端に総延長距離が短く、その流れが急であることが日本の川の特徴である。

一部の外人は、日本の川を見て、これは滝だ！と言ったそうです。

日本一長い信濃川(水源の標高2475m)の総延長距離は367Km、
次の利根川は、322Km(1800m)、木曾川は229Km(2446m,) 富士川は128Km(2685)。

世界で一番長い川、ナイル川は6650Km(水源の標高は1134m)、

次のアマゾン川は6516Km(水源の高さは5597m)

三番目の中国の長江(揚子江)は6300Km(水源の標高は青海省で5000m)、

米国で一番長い川はミシシッピー川、その総延長距離は5971m(水源の標高は450mと低い)でメキシコ湾に注いでいる。

歌で知られるコロラド川は2330Km(2700m)、

黄河の長さは5464km(水源の高さはチベットで4800m)、

ライン川は1233km、水源の標高はスイスの山1602mで6ヶ国を流れ北海に注いでいる。

パリのセーヌ川の総延長距離は780Km(水源はデижョン近くで標高471m)

〔日本と外国の川の勾配比較〕

